



2018年1月10日放送

頻用処方解説 麻子仁丸

筑波大学附属病院 総合診療部 漢方外来 **加藤 士郎**

主な効能

今日は麻子仁丸について解説します。麻子仁丸の主な効能は便秘です。腸燥便秘、軽度の腹痛、兎糞状の便あるいは便秘がみられるもの、習慣性便秘で兎糞状の排便がみられるものに適応があります。

処方の出典と由来

『傷寒論』と『金匱要略』から出典されています。

生薬構成の漢方的解説

麻子仁丸は、麻子仁 5g、大黄 4g、枳実 2g、杏仁 2g、厚朴 2g、芍薬 2g で構成されています。熱性と温性の生薬、すなわち身体を温める生薬は、杏仁と厚朴です。寒性と涼性の生薬、すなわち身体を冷やす生薬は、大黄・枳実・芍薬です。平性の生薬、つまり熱に関係のない生薬は麻子仁です。君薬は麻子仁、臣薬は杏仁、佐薬は枳実・厚朴、使薬は大黄・芍薬です。

麻子仁と杏仁によって燥を潤し枳実と厚朴によって気滞による食物の滞りと腹満を治療します。芍薬は腹痛を止めると共に、腸の働きを改善します。大黄は瀉下通便作用と麻子仁と杏仁による潤腸作用を促進します。このため兎糞をきたすような乾燥性便秘の症例に有効です。

古医書による記載

有持桂里 (1758-1835) は『校正方輿輓』で、「この処方、津液 (= 体液) 枯燥によっ

て大便が出なくなった者を治す。一切の大病後、あるいは生来虚弱の人、高齢者、婦人の産後などに、この症状は多い。」(意識)と記述しています。

百々漢陰(1774-1839)・百々鳩窓(1808-1878)の『梧竹楼方函口訣』でも、麻子仁丸は「老人あるいは胸の病気の後に腸胃が燥き渋り、便秘して小便が多く利する症状に用いる。」(意識)と記述しています。

尾台榕堂(1799-1871)は『類聚方広義』で、「体質虚弱な人、長い病気で体力のなくなった者、および老人、血液乾燥状態の者は、この処方をもつて、緩やかに排泄させるのが好ましい。」(意識)と記述しています。

昭和の大家である大塚敬節(1900-1980)は『症候による漢方治療の実際』で、「高齢者、体力あまり頑丈でない人、大病後の人などで、尿の回数が多くて量も多く、便秘するものに用いる。作用が緩和でひどく下痢をしない。」と記述しています。

現代における用い方

現代における用い方として、二つあります。一つは基礎的な検討報告です(原田由美,他:麻子仁丸は無繊維食によるラットの排便機能低下を改善する.Jpn Pharmacol Ther(薬理と治療).2016,44,1435-1443)。麻子仁丸や潤腸湯は、クロライドチャネルの一つである膿胞性線維症膜コンダクタンス制御因子、すなわち CFTR の活性化によって小腸液分泌亢進をきたし、これによって排便をきたしています。このことを、無繊維食を食べさせ、排便機能を低下させたラットによって実験的に説明しています。

もう一つは治験報告です(Cheng, C W.et al.Efficacy of a Chinese herbal proprietary medicine (Hemp Seed Pill) for Functional constipation. The American Journal of Gastroenterology.2011,106,120-129.)。麻子仁丸は、下剤として二重盲検 RCT が行われており、慢性便秘を改善することが証明されていますが、これは英論文で出ています。

処方適用のポイント

麻子仁丸は、兔糞をきたすような排便機能低下あるいは便秘に適応があります。排便は緩やかな排便をきたします。一般には体力低下気味の、初老期以後の人や大病後の人などに使用することが多いです。

類方鑑別

まず潤腸湯が挙げられます。潤腸湯は、麻子仁丸でも快便が得られず、兔糞以外に皮膚も乾燥しているときに用いることが多いです。

次いで桂枝加芍薬大黄湯があります。痙攣性便秘で腹満や腹痛が強く、他の下剤で腹痛や下痢をきたしやすいときに用いることが多いです。

次に大黄甘草湯ですが、これは漢方の便秘薬で標準的に用いられる処方です。しかし、兔糞状の便秘ではなく、体力がもう少しある、ごく普通の体力の人に用いることが多いです。

次いで調胃承気湯があります。これは便秘でも兔糞はなく、特に下腹部にガスが貯まっ

て便秘になる人に用いることが多いです。

典型的症例

麻子仁丸の典型的な症例を1例お示しします。患者さんは、54歳、女性、主婦です。主訴は慢性の腹痛、便秘です。既往歴として、38歳で卵巣嚢腫の手術、現在高血圧で内服治療中、糖尿病で食事療法中です。

現病歴として、卵巣嚢腫の手術を行った後、常習性便秘となり、常に西洋医学的下剤を内服していました。しかしながら下剤に耐性を生じたためか、ここ3ヵ月便秘が増悪する傾向にあり、腹痛を伴うこともしばしばありました。排便時も兎糞状の便があり、いつもスッキリと排便しなかったため当院に受診されました。

現症は身長158cm、体重54kg、貧血・黄疸・浮腫はありません。血圧132/74mmHg、脈は62回毎分 整、胸部所見に異常はありませんが、腹部所見で心窩部に不快感あり、触診で糞塊を触れます。漢方医学的所見です。やや虚証、脈候はやや沈、やや細、数・遅・中間です。舌候は、大きさは正常、色は淡紅色で正常ですが、やや乾燥しています。腹候は、腹力は中等度、心窩痞鞭あり、S状部に瘀血が認められました。

治療ですが、腹痛と兎糞状の便を排泄する便秘を主訴とし、やや虚証の体力と脈候と腹診所見から考え、麻子仁丸7.5g/日を処方しました。投与5日後には便秘は改善し始め、腹痛や残便感もなくなりました。便の性状も兎糞状であったのが改善し、通常の便が出るようになりました。投与21日後には快便となり、麻子仁丸5.0g/日を継続投与し、体調は良好となりました。